

6/23(土)

沖縄戦

巻き込まれた住民

時刻

対馬丸148人犠牲「危険な中避難させられた」

沖縄は23日、太平洋戦争

争末期の沖縄戦勝利者を悼む「慰靈の日」を迎える。沖縄を含む南西諸島では近年、台頭する中国の軍事力に備えて、自衛隊を増強する「南西シフト」が急速に進む。戦後78年のいま、甚大な戦禍に見舞われた沖縄で、住民を守り守るかが再び課題となっている。

▼1面参照

1944年8月22日、当時4歳だった照屋恒さん(83)=那覇市)=は、母と園田学校2年生だった姉ひき真理子開船「対馬丸」で被撃に向かっていた。午後10時すぎ、腐児島

県のトカラ列島沖で米艦水艦の魚雷の攻撃を受けて、船は大きく傾いた。船内を騒ぐ「海に飛び込む」という怒声。母に手を引かれ、泣きながら暗い海に飛び込んだ。

「ようやくだるむ」としがみついた。母は「お姉ちゃんを探しに行くから、あなたは絶対に手を離さない」と言つた。冰いでいた母は、戻らなかつた。

お年寄りや子ども、女性を沖縄から本土に8万人を運ぶことを政府や軍が決

定めたのは、敗色濃厚になつた44年7月。米軍上陸が目的でもあった。だ

が、近海ではすでに多くの船が沈められていた。対馬丸には1788人が乗船しており、学童784人を含む計1484人が亡くなつた。沖縄県によると、他のにも2年生で動員された安里祥徳さん(93)=北中城村=は45年5月27日、陸軍の電信連隊・第5中隊にいた。連隊が本部を置く首里周辺に米軍が迫っていたため、多くの住民が身を寄せていた南部に撤退した。

沖縄本島の南端、摩文仁の集落に着くと、第5中隊の先遣隊から海岸の斜面にある自然壕に案内された。安里さんは、先遣隊の仲間から耳を塞がれると罵られ、危険な状況で避難させられた。戦争になれば、お年寄りも子どもも関係なく、住民が

「第5中隊が摩文仁の住民から壕を奪つた」

硫黄計画が後手となるなか始まつた沖縄戦では、住民を動員して激しい地上戦が行われた。軍は本土攻撃までの時間稼ぎのための持久戦を開戦し、約12万人の住民が犠牲になった。

沖縄県立第一中学校の2年生で動員された安里祥徳さん(93)=北中城村=は45年5月27日、陸軍の電信連隊・第5中隊にいた。連隊が本部を置く首里周辺に米軍が迫つていたため、多くの住民が身を寄せていた南部に撤退した。

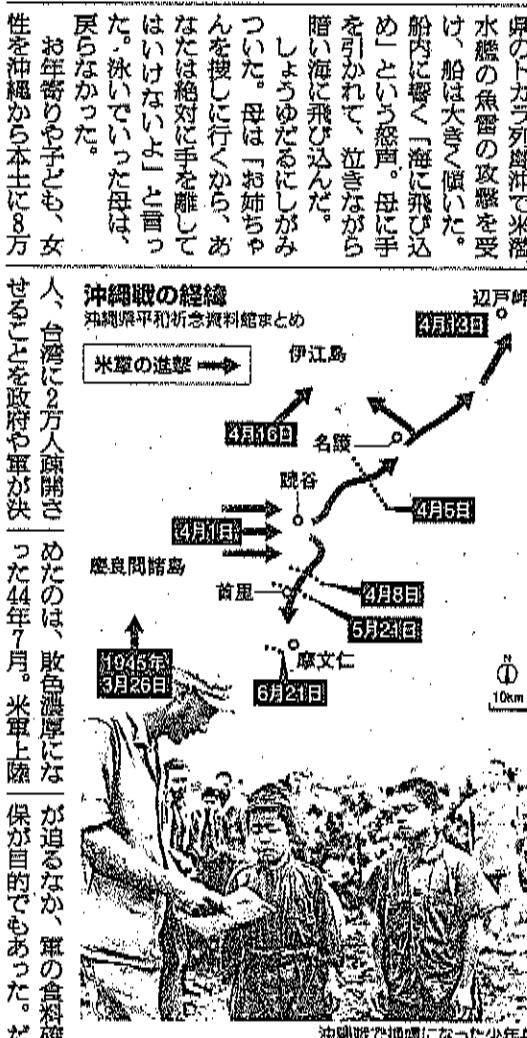
硫黄計画が後手となる

軍が兵力を維持するためだった。追いつかれたお年寄りや子どもたちは、「鍋や釜を持たれてやうな顔をして、とほとほと歩いていった」と教えられ、「かわいそうなことをしてしまった。いつもおわびに行く」と思つていました」。安里さんは沖縄戦から70年にあたる2015年、摩文仁の住民の代表を訪ね、謝罪しました。だが、悔恨の意が消えられないことはない。

安里さんは嘆う。「誰もできれば住民を守りたかった。だが、悔恨の意が消えられないことはない。

「第5中隊が摩文仁の住民から壕を奪つた」

(比嘉松、小野太郎)



沖縄戦で捕虜になった少年兵

1944年8月22日、当時4歳だった照屋恒さん(83)=那覇市)=は、母と園田学校2年生だった姉ひき真理子開船「対馬丸」で被撃に向かっていた。午後10時すぎ、腐児島

お年寄りや子ども、女性を沖縄から本土に8万

人、台湾に2万人疎開させることを政府や軍が決

定めたのは、敗色濃厚になつた44年7月。米軍上陸保が目的でもあった。だ

が、近海ではすでに多くの船が沈められていた。対馬丸には1788人が乗船しており、学童784人を含む計1484人が亡くなつた。沖縄県によると、他のにも2年生で動員された安里祥徳さん(93)=北中城村=は45年5月27日、陸軍の電信連隊・第5中隊にいた。連隊が本部を置く首里周辺に米軍が迫つていたため、多くの住民が身を寄せていた南部に撤退した。

沖縄本島の南端、摩文仁の集落に着くと、第5

中隊の先遣隊から海岸の斜面にある自然壕に案内された。安里さんは、先遣隊の仲間から耳を塞がれると罵られ、危険な状況で避難させられた。戦争になれば、お年寄りも子どもも関係なく、住民が

「第5中隊が摩文仁の住民から壕を奪つた」